

「科学的根拠に基づく健康寿命を伸ばす会 第13回講演・研究会」

【日時】 2019年2月25日(月)
開場 14:10 講演・研究会 14:30-16:50 懇親会 17:00-19:00

【場所】 〒162-0824 東京都新宿区揚場町 2-1 軽子坂 MNビル1階
インテリジェントロビー・ルコ
JR 飯田橋駅 徒歩3分
地下鉄飯田橋駅 B4b 出口 徒歩 1分

【参加費】 講演会: 個人維持会員: 3,000 円
法人維持会員: 無料(1社あたり3名まで)
非会員: 5,000 円、学生: 無料、社員: 2,000 円
懇親会: 5,000 円(学生: 3,000 円)



【プログラム】

14:30~14:35

ご挨拶

河野 雅弘

NPO科学的根拠に基づく健康寿命を伸ばす会 理事長

14:35~15:15

新しい検出法「超高感度 ELISA 法」を利用した感染症検査への応用

中石 和成 氏

株式会社タウンズ 品質本部 本部長

我々は、画期的な増感法であるチオ NAD サイクリング法とターンオーバー数の大きい酵素を標識酵素に使用する ELISA 法と組合せて、タンパク質の超高感度測定法を開発してきた。この方法は、通常の ELISA 法の 1000 倍以上の高感度化を達成している。この技術を応用して結核症の検査の早期実現への取り組みを行い、その結果、確定診断法である培養法と比較して早くても 10 日~2 週間かかる検査を、約 4 時間以内の検査で培養法と同等の成績で検査することが可能となった。

15:15~15:55

水溶性 DPPH ラジカルによる抗酸化物質の活性評価

中西 郁夫 氏

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所

放射線障害治療研究部 障害分子機構解析研究チーム 上席研究員

抗酸化物質の活性酸素ラジカル消去活性は、溶媒や pH などの影響を大きく受ける。一方、抗酸化活性の評価には活性酸素ラジカルのモデルとして 2,2-ジフェニル-1-ピクリルヒドラジド (DPPH) ラジカルが広く用いられているが、水にまったく溶けないことが問題であった。我々は最近、DPPH ラジカルの水溶化に成功し、有機溶媒中のみならず種々の pH の水溶液中でも DPPH ラジカルの利用が可能となったので紹介する。

15:55~16:10

休憩

16:10~16:50

酵素のはたらきを見て疾患を知るケミカルバイオロジー研究

小松 徹 氏

東京大学大学院薬学系研究科 助教

私たちの体内には、数千種類を超える酵素(代謝反応を担うタンパク質)が存在し、これらの機能の異常が疾患と繋がる例は多く知られていますが、いまだ「疾患との関わりが見出されていない」、「疾患との関わりは知られているがそのメカニズムが明らかにされていない」といった酵素が数多く存在します。本講演では、酵素の動的機能の理解を可能とするケミカルバイオロジー(化学に基づく生命科学研究)の研究ツールを開発し、この理解を進める演者らの研究の取り組みについて紹介させていただきたいと思います。

【申込方法】

www.npo-sphle.org からお申込みください。

(e-mail または Fax でのお申込みの場合) 件名を「2/25 PH 会講演会参加申込み」とし、お名前、ふりがな、メールアドレス、会員種別、講演会への出欠、懇親会への出欠、ご所属、部署・役職、連絡先住所、連絡先電話番号、連絡先 FAX 番号を、info@npo-sphle.org または 03-5284-8532(fax)までお送りください。